

- ・まずは、信頼関係を築くことが大切だということを、改めて実感しました。
- ・茶話会で保護者同士で交流できるのがいいですね。
- ・吃音の指導は安心できる環境づくりが大部分を占めると感じました。
- ・子どもの実態を細かく把握し、色々な方法で丁寧に指導をされていて素晴らしいと想いました。保護者や子どもに寄り添っていく指導の大切さを改めて感じました。いろいろな教材も紹介して下さって、参考になりました。ありがとうございました。
- ・吃音症の子が増えています。いろいろな事例の紹介は参考になりました。
- ・吃音の児童が、「自分の話し方はこれでいい」と受け入れられるためには、周りの支援が欠かせないと改めて勉強になりました。本当は学校や家庭でそれらを理解し、適切な関わりができればよいのですが、まだまだ理解を求めていかないといけない状況のため「言葉の教室」に通うことで、その環境を積極的により良いものにするヒントをもらえ、結果子どもの環境調整ができていくという循環が想像できました。「ことばの教室」の数も少ないため、親の送り迎え等課題はありますが、必要な児童に適切に支援できる環境があちこちで整ってくれば良いと感じました。しかし、指導方法もさることながら、何より山越先生の優しい語り口や子供を見る目によって、1時間関わってもらう児童は十分に満たされエネルギー補給ができ、「自分を大切にしてもらっている」という感覚を得られているように私は感じました。どうもありがとうございました。
- ・吃音児童の吃音理解や心の安定だけでなく、保護者との繋がりを大切にしながら実践されているところが素晴らしいと思いました。ありがとうございます。
- ・自分のところにも吃音の子が通っており、自分が吃音であること、どんなときに吃音が出やすいか、吃音理解をやっているところなので、引き続き行っていきたいと思った。茶話会という恵まれた環境が整っているのは素晴らしいと思った。
- ・吃音の子供の発達にも問題ある子がたくさんいます。吃音の理解を深めながら、発達全体へもアプローチし、保護者との懇談会では、言語聴覚士の先生にも入っていただき、環境調整をしっかりしていくことで、子供や保護者も自信をもって生活できていくのではないかと思います。
- ・同じ吃音の子どもでも、先生が一人一人に合った課題を見つけて取り組まれていて、自分のことをわかってくれる先生がいるのは、子どもはとても心強いと思いました。
- ・実際に、事例を提示してくれたことで、イメージを持って聞くことができた。担当者との関係づくりのゲームを実際にやってみたい。
- ・子どもの実態をよく捉え、タイミングをはかりながら吃音の指導をすることは児童の心身の安定につながるということがわかりました。事例児 B の実態を聞いて、話し方をまねされることは、大きな心理的ダメージになり、吃音症状がひどくなってしまう(難発、連発、随伴)のだと思いました。
- ・吃音のあるお子さんたちの指導ですが、私の教室は幼児の教室なので、指導というよりは、教室で自分を表現できる場所として提供し、保護者には吃音について理解をしてもらうように努めています。毎年この時期、年長児で就学してからも「ことばの教室」に通った方がいいお子さんに関して、小学校の教室で行っていることがわからない部分もあったので、今回、山越先生の事例から保護者に進める時のヒントになるような内容が沢山あり参考になりました。幼児の場合は、まだ、自分自身で吃音に向き合うということではできませんが、大きくなってくると

自分に向き合うことが必要になってきますね。保護者との連携や保護者間での情報交換も必要なことです。幼児の教室でも参考にさせていただきます。

- ・吃音のリーフレットを配布するなど、周囲を変えていくこと、吃音を理解できる子どもや大人を増やしていくことはとても大切だと思いました。安心して話せる環境があるからこそ、自分に向き合ったり、表現できたりすると思います。吃音指導でまず大切にしたいことを学びました。
- ・ありがとうございました。まだ吃音の園児を受け持ったことがありませんが、教室には在席しております。大変勉強になりました。
- ・事例をもとに丁寧にまとめられており、とてもわかりやすかったです。リズムをとりながら音読するという方法を試してみたいと思いました。
- ・児童対象の吃音の指導について、参考になった。
- ・茶話会の参加者がとても充実しているなど感じました。私も参加してお話を聞きたいと思いました。・吃音についてのリーフレットは市教委が中心になって配付されているのですか？また、内容はどのような物でしょうか（しずおか言友会のリーフレット?）。すばらしい取り組みだなあと感じました。・吃音をもつわが子の将来に不安を感じている保護者が多いと思うので、幼児教室と児童教室をつなぐ試みや退級された保護者の話を直に伺う機会をもつことは素晴らしいと思いました。・吃音に対する自己理解を深めることは、発達段階としてどのあたりからが良いのか知りたいと思いました。・事例を詳しくお話いただき実践内容が分かりやすかったです。一人ひとりにどのような変容が見られたかもう少し詳しく知りたいと思いました。
- ・幼児担当です。吃音指導はいつも悩みますが、大切なことは、本人が困ったときに、一人で抱え込まず、気持ちを聞いてくれて、吃音との向き合い方を一緒に考えてくれる場があることだと思っています。そのためには、先生が行っておられたように、実態を把握して関係を作ることが大切だと改めて感じました。幼児は、自分の吃音症状に気付かず話すことが多いです。話を聞いてもらえる場の提供は、幼児吃音通級の大切な役割かもしれないと思いました。また、幼児の保護者は、将来への不安を口にする方が多いです。沼津地区が行っている茶話会のお知らせをしても参加にまではいたっていません。同じ悩みをもつ保護者同士が話せる場があることを知ってもらえるよう、今後も提示していきたいと思っています。
- ・事例に出てきた子供達は、全員が自分の吃音を否定的に感じていて、自信のなさも感じていた。吃音と言っても、悩みも吃音以外の特徴も一人一人様々で、個の実態（困り感）に合わせて寄り添った、学童期の指導の大切さを改めて感じました。・遊びの内容やゲームのチョイスは、実態に合わせて提案するが、たいていこどもの心にヒットしないという先生の素直な感想に、共感しました。子ども自身が選ぶ、選ばせてもらえる、選んだものに取り組むことができる。とても嬉しそうに楽しく過ごす様子が想像できました。茶話会に言語聴覚士が参加することには驚きました。
- ・ピアカウンセリング、ピアサポーター、ペアレントメンターなど、当事者或いはその保護者の存在が今悩む人にとってもたやす安心感はとても大きいだろうと思います。茶話会、とても素敵だなと思いました。次のステージに繋がる支援を考えていきたいです。
- ・吃音のある子の理解のために保護者や学級との連携は欠かせないなと思いました。発達段階に応じて、自分で自分のことを周りに伝えられるようにサポートしていきたいと感じました。また吃音のある子のグループ学習は、「自分だけではない」という子どもたち・保護者の安心感につながる大切な場であることがわかりました。
- ・子どもに課題を選ばせることがいよつにつながることがとても良いと思いました。・吃音の子どもも運動が効果的と分かり、取り組んでみたいと思いました。・OB、OGの母を招いての茶話会は母親が今後の見通しが持て

- る良いきっかけになると思います。・色々な事例を通して、自分を知る→環境→連携の三本柱で行うことの大切さを教えていただきました。今後の市道で年齢、個に合わせながら取り入れていきたいと思ひます。
- ・沢山の事例を挙げて、必要な指導内容を考えているところがいいと思ひました。まずは子供との人間関係を構築してから慎重に吃音の内容に触れていくところは大変参考になりました。吃音の理解が進み、自分の強みを知ることを通して、自分らしく生活していくことややりたいことを躊躇なく挑戦していくことができる事例を紹介していただき良かったです。私が担当している児童もぜひこのように積極的に活動できるようになってくれるように指導内容を検討したいと思ひました。ありがとうございました。やはり、担任と連携し共通理解を図ることが基本であると再度確認させていただきました。指導の様子を見てもらうのも今後取り入れていきたいと思ひました。
 - ・パズルや絵しりとりなども吃音の子どもたちに有効であると初めて知りました。フリートークを嫌がる子もいるので、どこまで踏み込んでいいか迷っていましたが、その子がやりやすいと感じるものを少しずつ取り入れていけばいいのかなと思ひました。メトロノームに合わせたリズム読みはゲームクリアのような感覚ができておもしろいのかと思ひました。その子が思う思いっきり速いところまでやらせて満足させてから相手意識をもたせて速度を落とすことで自信がつくのかなと思ひました。
 - ・先生のように保護者にもお子さんにも丁寧に寄り添って関わる人になりたいと思ひました。・子どもと一緒に遊んだり楽しめる課題を取り入れることで安心できる人・場所・時間になることが大切だと思ひました。子どもや保護者の方と一緒に吃音の悩みや関わり方を考えていけるようになりたいと思ひました。・自己理解とともに環境調整はとても大切だと思ひました。茶話会などはとてもいいなと思ひました。
 - ・吃音に対する自己理解のタイミングは難しいといつも感じています。先生の実践が参考になりました。
 - ・吃音児の指導をしています。吃音について子供たち自身で分かてもらうことと、周りの方に知ていただくことの両輪で指導を進めていくことが大切だといことが分かりました。環境調整の大切さから、吃音児の保護者同士で集まる茶話会の開催についてチャレンジしてみたいと思ひました。資料にあるボードゲームは知らないものが多かったので、すぐネットで調べてしまいました。
 - ・感想 茶話会 卒級者の保護者やSTさんも参加できていてよい会だと思つた。本教室でも以前はやっていたが、コロナ以降立ち消えとなっている。
 - ・吃音はどんな指導がいいのか悩みますが、サイコロトークやお話すごろくは用事でもできるので、指導に取り入れてみたいと思ひました。・吃音リーフレットで、吃音の理解を広められるのはとても良いと思ひました。・吃音に対する本人へのアプローチも大事だが、茶話会のように保護者同士で話せる場も大切だと思ひました。
 - ・とても丁寧な指導をされていると思ひました。主訴は同じ吃音ですが、一人ひとり困り感が違うといことで、それが何かを考え、次に子供の吃音に対する認知度を考えていく、そして、テーマ設定という一連の流れがとても分かりやすかったです。改めて、個々に応じての吃音に対する学習時期、自己理解の進め方が重要だと思ひました。担当者と保護者が同じ方向を向き、保護者の理解をもとに進めていく形や在籍学級と連携をとり、担当者が三者間の橋渡しとなるような支援方法は環境調整として大変重要だと思ひます。私も子供の吃音に対する認知度をもう一度考えていこうと思ひました。改めて自分の指導を振り返り、考えることができた分科会でした。ありがとうございました。
 - ・通級の指導を始めた頃に、「吃音の話ってしにくい」と自分も思っていました。関係作りから進めていくことは大事なことだと思ひました。・吃音についてのリーフレット、市内の全職員に配付されていることに驚き、うらやましい限りです。浜松市でも、他の職員の理解が深まると良いと感じています。・昔に比べて吃音を知る方、理解が広まってきていると思うが、当事者とその周りの人たちが語らう場がもっと必要だ感じた。・幼児の場合、本人の

みではなく、保護者の吃音への理解がとても大切だと感じています。吃音児の保護者同士のつながりがもっともてるとよいと思います。

- ・吃音の茶話会、実施したいと思いながら何年もたっている。保護者同士が仲良くなることはメリットがあると思う。
- ・吃音だけでなくその他の課題を併せ持つ児童が多く、主訴が吃音以外に変わっていくケースが最近多い。一人一人に合わせた吃音指導を考えたい。全てに共通することは、自分の良さや苦手さに気づくこと、自己理解を進めることは大切だと思う。ありがとうございました。
- ・吃音の子にどんな指導を?と思っていたので大変参考になりました

吃音分科会 質問・回答

Q 思考も身体も固い吃音の子にはどのような指導をしていけばいいのか。

A 吃音の児童に限らず、ことばの教室では指導の中に運動を取り入れることが多いです。体の動きは言葉に影響することや、運動することで、リラックスする様子が見られます。特に、私が担当している吃音の児童は身体を動かすことが好きな子が多いため、運動の時間を多くとっています。ただ、運動が苦手な児童もいるため、運動に限らず、児童が好きなことや得意とすることを切り口にしていくと、意欲的に取り組み、かつリラックスした雰囲気の中、のびのびと活動できています。

Q 事例児 B の吃音に対する捉え方や症状はどのような変化が見られたか。

A B さんは、通級当初は学校に対するマイナスな話が多かったが、それが聞かれなくなり、「楽しい」と答えることが増えました。また、初めは自分のことを一方的に話す様子が見られましたが、相手の話を聞いたり、相手意識が芽生える発言などが見られるようになりました。吃音に対してはもともと知識も少しありましたが、自分の話し方について担当と話題にしていく中で、自己理解が深まっているように感じました。ただ、参観会などの行事では、発表がうまくできないことに不安を感じることもあるため、今後も在籍校と家庭と連携と取りながら見守っていきたいと思います。

Q 幼児ことばの教室ではどのような支援を経験していると、学齢の支援にスムーズに移行できるか。

A 幼児の頃に必要な支援として、環境調整が大切かと思えます。保護者の吃音に対して理解を深めたり、保護者の気持ちに寄り添い支援していくことで、子どもとの向き合い方や接し方が変わってくると思います。保護者自身が吃音を受け止めていると、子ども自身も吃音に対しての受け止め方が変わるので、子どもが吃音に向き合う姿勢ができてくると思います。

Q 吃音のリーフレットの内容は、どのようなことが書かれているか。

A 沼津市で配布された吃音のリーフレットは、静岡県ことばと心を育む会（東部吃音ネットワーク）さんと、しずおか言友会さんが中心となって作ってくださりました。

内容としては、吃音のそれぞれの表れや、吃音に対する知識、基本的な接し方、からかいに対する対応などです。インターネットで「沼津市 子ども 吃音」と検索していただくと、「発達／障がい 沼津市子育てポータルサイト」というページが見つかります。その中から PDF ファイルをダウンロードできますので、参考にしてください。

YouTube

→山越先生より

・前任の方が作成されたという「吃音に対する知識がまとめられた PP」がどのようなものかとても興味があります。
→ありがとうございます。PP は児童の吃音理解のために作られたものですが、相談にみえた保護者に対しても、活用することがあります。前任の教員に確認をとってみたいと分かりませんが、もし気になるようでしたらご連絡ください。

・ありがとうございました。焼津市でも吃音についてのリーフレットを全職員に配りたいと思いました。担当して2年目ですが、これまで、吃音の子の担任の先生にだけ配っていました。グループについては、全く考えていなかったのですが、今回お話をうかがって、自分もあの子とあの子ならやる価値があるかもしれない、という子が浮かんだので、検討したいと思います。

→ありがとうございます。沼津市では、ことばと心を育む会さんの方からの働きかけで、リーフレットを全職員に配布する機会をいただきましたが、本当にありがたいと感じております。第二小では、配布をする際に、先生方への理解が深まるように、説明を付け加えさせていただきました。

グループ活動は、その子の実態や時期などあるかと思いますが、価値のあるものとなると感じております。私も、3学期には実施できるといいなと思います。ちなみに、私は同学年の児童が数名おり、人との関わりを好む子や、吃音に対して意識が高まっている子などで、グループ学習を行いたいと考えております。伊久美先生はどのような児童の顔が目に浮かばれたのか、気になりました。

・沼津市で、吃音についてのリーフレットが全職員に配布されているとのこと、必要なことだと思います。どのような経緯でそうなったのか伺いたいです。それを見て、担任の先生が気づいてくれたり（あまり話さないと思っていたら、実は吃音をもっていた等）相談をしにきたりすることはありますか？

→ありがとうございます。リーフレットは、ことばと心を育む会が主になって発行してくださった物です。もともと他県で全職員に配っている事例があり、ことばと心を育む会の中でも、全職員に配布できたら、という話が出たことがきっかけで配布することになったようです。育む会では、沼津市の教育委員会と年に1回、話をする機会を設けており、その中で具体的に配布することになったと伺いました。沼津市の小中学校や保育園には配布されています。その後、リーフレットがきっかけかは確認しておりませんが、担任から吃音の児童について相談を受けたり、担任の先生からの発信で、ことばの教室へつながったりしたことはありました。

・浜松市立双葉小学校5名です。

いろいろな機関との連携は大事だと思いました。

児童の実態に合わせての吃音理解のタイミングをスモールステップで行うことは納得できました。グループもできるようになるといいですね。

茶話会いいですね。実施可能ならぜひ取り入れていきたいのですが、なかなか言語聴覚士が参加できたり卒級児の保護者に来てもらえたりは難しいですね。でも、とてもいい環境だと思いました。

沼津市に職員に全員に配布しているリーフレットをぜひ見せていただきたいです。浜松でも配布されるといいと思います。言いたいことが言えないのは吃音だと分かってもらえるのは大事だと思いました。そして、言えないことが吃音だと自然にわかる社会になっていけたらいいなと思いました。

→コメントを拝見し、自分たちの環境がいかに恵まれていたかに気づくことができました。ありがとうございました。吃音について理解が深まることは、環境調整の面から見て、本当に大切なことだと実感しております。その面でも、全職員にリーフレットを配布していただける機会に恵まれたことも、ありがたかったです。

リーフレットはネット上からも見られるのですが、その情報をのせると、コメントが削除されるのでしょうか。この文章の前に2回ほど返信をさせていただいたのですが、2回とも表示されなくなっていました。そのため、返信が遅くなり、申し訳ございませんでした。リーフレットの情報は、また何らかの形で、お知らせさせていただきます。

・茶話会の良さを感じました。個人的には吃音のある保護者どうしの繋がりはあったほうがいい、と思っています。保護者会とか茶話会は実施していませんが、なにかしらやっっていこうと思いました。

→ありがとうございました。私も保護者同士の繋がりは必要だと感じております。

今年度も11月に茶話会を行いました。保護者の感想では、吃音について周りに話す機会が少ないため、「話して聞いてもらえる」機会がありがたかったとの言葉をいただきました。また、吃音のある児童の保護者以外で、吃音について学びたいからと参加してくださる方もあり、非常に有意義な会になりました。

